

# テニス・ミュージアム

URL: <http://www.jta-tennis.or.jp/museum/> Email: [museum@jta-tennis.or.jp](mailto:museum@jta-tennis.or.jp) Phone: 03-3481-2321 Fax: 03-3467-5192  
公益財団法人 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館



## 三つの「B」

(公財) 日本テニス協会会長 柳信雄

私は学生時代を含め、35才位まではスポーツといえば、専らサッカーであった。テニスを始めたのは、中年以後、然も会社のグラウンドで見よう見まねからであり、テニスを楽しんだ長さだけは30年を越えたが、とてもテニスについて専門的な話をする様なレベルではない。一昨年JTA会長職に就かせていただいて、突然テニスの試合を見る機会が多くなり、しかもレベルの高い試合を見るにつけ、サッカーで学んだ言葉を思い出した。サッカーには「三つのB」という教えがある。サッカーは、イギリスが起源だから英語の頭文字からきている。サッカーで大事な三要素の事である。

最初のBは、ball control 次のBは、body balance 最後のBは、brain である。

この解釈は色々あろうが、簡単に言えばつまり、ballを扱う技術は勿論として、全速力で走り乍らその技術を駆使できるbody balance、即ち体力だが、筋力なども含まれる本当の意味のスピードと正確性をもたらす土台の意であろう。そして、brainは頭脳と訳すが、試合中の判断力、ドリブルするかパスをするか、また攻撃するか守るか、それを一瞬の内に適確に行なう力でもいおうか。

ここまで書くと、日本の武道でもいう「心・技・体」の言葉を思い出す方も多いかも。言葉の順序は違うが、まず似た様な

概念といってよいかもしれない。

だが、若い頃から最後のB、brainの奥は深い様に思っていた。サッカーの場合だと、チームワークなどの重要な観点がここに入る。即ち、一瞬の内に味方と心をつなげたパスが成立して得点になるということは、急にグラウンドに立って出来る事ではない。普段の集中した練習や、またチームメートの付き合い方にも大いに係わってこよう。更にいえば、小さい頃からの本人の社会性とも係わりがあり、それは家庭における教育のあり方とも無縁ではないし、その国の社会、文化、人間性にも係わっているかもしれない。ワールドカップサッカーなど全世界の人が熱狂するのは、技術、体力はあまり差が無い程レベルが高くなった時、勝敗を分けるのは最後の「心」という部分、そこでの勝負を国の存在そのものとして意識するからなのかもしれない。

テニスは、特にシングルスでは、サッカーの場合とは同じではない「心」の要素もあるかもしれないが、グローバルなレベルの高い試合程、「三つのB」が人々に感動を与えるのは明らかで、その中で最後の勝者となるのは、最後のB、単に試合中だけでない一番強い「心」の持主かと思う。テニスの試合の観戦をするにつけ、テニスの歴史にそびえる偉人達の「心」に思いを馳せるのである。



## 素晴らしいミュージアムの実現に向かって

(公財) 日本テニス協会専務理事 内山 勝

(公財) 日本テニス協会 (JTA) は創立90周年を迎えましたが、1920年代の設立当初は世界のトップ10に男子が何名も名を連ねる等、目覚ましい活躍をされ、その時の賞金等がJTA設立の為の資金の一部となりました。

それから90年の間に幾多の輝かしい成績を積み重ねた結果の輝かしい記録や用品・用具等を収集し、テニスミュージアムを設立して日本のテニスの歴史を展示する、という計画をスタートしてから、全国に呼び掛けてご協力をいただいた結果、たくさんの資料を集めることができました。故宮城黎子委員長の遺志を引き継いだ小田委員長の下、ミュージアム委員会の皆様の熱心な努力の賜物と深く感謝いたします。特に、委員会のスタート時から非常に熱心に資料の収集と整理、検証にご尽力いただきました岡田委員が今回諸般の事

情により退任されますので、この場を拝借いたしまして厚く御礼申し上げます。

世界には、全英、全仏の会場、アメリカ・ニューポートのテニスの殿堂等のテニスミュージアムがあり、毎年たくさんのファンが訪れています。

日本では、東京オリンピックが実現しますと有明コロシアムが大幅に改修されてテニスミュージアムのスペースも計画されております。素晴らしいミュージアムの実現に向かって更に資料の収集、整理、保管と同時に資金集めを行いながら、準備を進めております。

今後とも、立派なミュージアム設立に邁進してまいりますので皆様のご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

## ご支援に感謝

テニスミュージアム委員会委員長 小田 晶子



皆様、お元気にお過ごしでしょうか？  
早いもので、宮城黎子さんの遺志を受け継ぎ「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」の目標とした中期5カ年計画は愈々、最終年を迎える事となりました。延べ1500人以上と大変、多くの方々の温かいご支援のお蔭で当初の目標額を大幅に超えるご支援を頂き、別紙収支報告 (P.4) の通りとなりました。心より厚く御礼申し上げます。皆様からの貴重な浄財1,000万円を趣意書に掲載いたしました目標に、残りをミュージアム設立準備金として留保し「終わらなきプロジェクト」を一步一步、地道に継続して参ります。主な事業計画は、所蔵史資料の写真撮影、ご寄贈いただいたアルバム、

スクラップ類を電子ファイルに、閲覧室・保管室の確保、史資料を系統的に整理・保管・検索・公開できるシステムの構築・デザイン費用等に使用させていただき予定で、今後の継続事業となります事をご了承いただければ幸いです。

昨年度からスタートいたしましたJTA特定寄附金「テニスミュージアムに関わる寄附金」に移行いたしました。テニス愛好家の皆様のご理解をいただき史資料のご提供も合わせて、今後ともご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念いたします。



## 父 原田武一

医師 元日本内分泌外科学会理事長 原田 種一

子供が親のことを書くのは難しい。娘の場合は母親と一卵性親子と呼ばれた昭和の御世で最も高名な流行歌歌手や、明治の大文豪の娘で父親に殆ど恋愛感情といって差し支えない気持ちを抱いていたと思われるなど複雑な感情もあるらしいが、息子の場合は父親に多かれ少なかれエディブスコンプレックスと呼ばれるものを持っているからである。

さて私の父武一は倉敷という片田舎の地主の長男として生まれ、金光学園中学時代よりなにかその切っ掛けとなったかはいまだ判然としないのだが、当時余り一般的とは言えなかったテニスに懲りだし、上京して慶応義塾に入学した。ハンサムであった上、運動選手、しかも祖父が父を溺愛し、小遣は貰い放題、もてぬわけはなく、新橋などの花柳街で遊び抜き、その後ハーバード大学に留学、ウインブルドン、パリで開催のオリンピックで、優勝には手がとどかなかったものの先ずは世界的に活躍をした幸せな男であった。慶応でもハーバードでもまともに勉強して卒業したとは思えぬが、双方の大学の卒業生名簿には、名前が載っているのは不思議なことだ。

その息子である私は母親似で、体が弱く大金持の父親も持たず、家庭では母に我侭放題の父をあまり尊敬したとは言えぬ感情を子供の頃は抱いていたのだが、歳を取るにつれて、次第に父の偉さが判ってきたような気がする。

父がテニスであそこまで伸びたのは、本人の天分もあり、努力も

人並み以上、努めたこともさることながら、天性の人に好かれる性質も有利に働いたことも確かである。実際には上は東久邇宮稔彦王を始めとして末は町の闇屋まであらゆる階層、職業に友人、知人を持ちその人脈の広さは驚くばかりであった。また若い庭球部の後輩の面倒見もよく、それらの友人や後輩を次々と自宅に招待するので母は大変だった。しかし、父が庭球部後輩で三菱重工の志村彦七さんのお陰で、三菱岡山自動車販売会社の社長、会長を勤めさせて頂き、亡くなるまでお給料が出たのも、その面倒見のよさと顔の広さのお陰であろう。

慶応時代、遊びが過ぎて庭球部を蹴になりかけた時、助けてくださったのが当時、庭球部部長の小泉信三先生であり、先生にだけは一生頭があがらなかった様である。それでも、先生のご自宅での庭球部の集まりで、先生が一生懸命、当時の皇太子と美智子妃の話をしておられるのに、もうそはそはと閉会后、御茶屋に遊びに行く相談を東北の勇名酒造家と始め、先生より大目玉を食らったそうだ。真面目な小泉先生は、父のこのような性質さえも愛してくださったに違いない。

私が登山に夢中で予科時代、落第した時、「何度も落第した儂に恥を欠かさぬよう落第してくれたのだから」と言われたことがあった。どんな叱責を受けるよりもこの冗談は身に応えた。それから私は父を偉い人と尊敬するようになったのだった。



## 僕は宮城黎子先生から 2つの宝物をいただいた

プロテニスプレーヤー 松岡 修造

一つは世界で戦うこととは何かを教えてくださいました。

僕が、宮城先生魂を初めて注入したのは17歳。ジュニア大会の遠征で全仏オープン、ウインブルドンを含め、2か月間の旅を宮城先生が監督として引率していただいた時。

僕はその遠征で、世界で戦うことの本質を宮城先生に叩き込んでいただいた。毎週国が変わっていく遠征。

飛行機、ホテルの予約からはじまり、海外選手への練習相手の交渉、食事。すべてにおいて宮城先生は僕に率先して行動させた。正直、嫌なことばかりだった。今まではすべて周りの人がしてくれていたが、宮城先生はあえて僕に自分一人でするように行動させたのだ。世界で戦うことはコート上だけでないということを教えてくださいました。

今でも忘れられない出来事がある。それはベルギーで行われたジュニア大会でのこと。僕は、格上相手にがむしゃらに立ち向かった。のちにプロになり全仏オープン優勝者となったトーマス・ムスター選手だ。当時、ジュニアでもトップ選手だったムスターと戦っただけで満足していた自分がいた。試合後、宮城先生が僕をすぐに呼び寄せ、ある場所に連れていった。今でもその光景が蘇る。僕と試合が終わったばかりのムスターが、鬼の形相でテニス選手にとって最もきつい振り回しを、もがきながら行っていた。見ているだけでも苦しくなる練習だった。その時、宮城先生が僕にかけた言葉が忘れられない。「修造君、これが世界よ！」僕の心が変わっていくのを感じた。本気で世界で戦っていくことを植え付けてくれた瞬間だった。

そして、宮城先生が僕にくれたもう一つの宝物は、テニスの醍醐味を教えてくださいました。宮城先生は、世界一テニス観戦をする方だった。

グランドスラムすべての大会の予選から、いつも一日中試合を観戦していた宮城先生。朝一から、夜中まで行われるナイトセッションまで見続ける。宮城先生はテニスが好き、いや愛しているのだ。僕は先生に一度聞いたことがある。「なぜそこまでテニスを観られるんですか？」と。「修造君、テニスって奥が深いよ。テニスを観ているとその選手の間力もみえてくるから……ドラマがいっぱい。テニスを観ているときが一番幸せなの」。僕は、宮城先生を通してテニスをどんどん好きになっていった。

最後に、宮城先生は僕にいつも言っていた言葉がある。「修造君、世界で活躍できる男子選手育ててよ」と。僕は、現役を退いたときから初めているジュニア合宿で、宮城先生から伝授されたことを伝えてきた。今や錦織圭選手を含め、現時点で100位に入っている日本男子選手は3名。その状況を宮城先生はどんな気持ちで観戦するだろう。

今後、宮城先生が伝授してくれたテニス魂、宮城先生魂を日本のテニス界に伝えていくのが僕の使命だと感じている。

宮城先生との出会いがなければ今の僕はいなかった。

宮城先生ありがとう。これからも日本のテニスを見守っててください。

## テニス文化を耕す

元テニスミュージアム委員会委員 岡田 邦子



「ボールに集中！」していたら、いつの間にかテニスボールの歴史を調べるようになっていました。中世のテニス、初期ローンテニス、日本伝来当時のローンテニス、明治後期の庭球、そして大正期国際化以後から現代まで、テニス史への関心は広がります。と同時に、調べる手がかりとなる史資料の大切さを痛感するようになりました。

かくて2002年に発足した日本テニス協会テニス資料館準備室(現、テニスミュージアム委員会)に参加することとなり、宮城黎子委員長、小田晶子委員長のもと、委員会チームワークの力で充実した委員活動を続けることができました。ご支援くださる方々の輪も広が

り、おかげさまで史資料の収集・保存・活用も一步一步、確実に進んでいます。

そのような時期に委員を継続できないのは残念ですが、持病をかかえたままでの活動には限界がありますので、平成25年度からの委員就任は辞退させていただくことにしました。紙面をおかりして、これまでのご厚情に感謝申し上げます。

今後は外部サポーターの立場で協力し、自分なりのペースでテニス文化を耕してゆきたいと思っています。競技もさることながら、絵画、工芸、文学など、テニス文化をめぐる興味は尽きません。

# ジャパンオープン歴史展示

(2012.10.1～7、於・有明コロシアム)

## デビスカップ

～ 1921年、日本初参加の記録～



▲チャレンジラウンドで、米国のチルデン選手に対する清水選手



▲1921年デブプログラムの表紙。参加国の代表旗が配されている  
▲日本庭球協会設立の鍵となったデ杯戦、初出場でチャレンジラウンドに進出。左から、清水、柏尾、熊谷の各選手



▲チャレンジラウンド対戦表

## デビスカップ

～ 1951～1973年、デ杯復帰からジャパンオープン開催まで～



▲当時のデ杯・フェド杯プレーヤーなど



▲来場された原田種一氏(左)と宮城淳氏



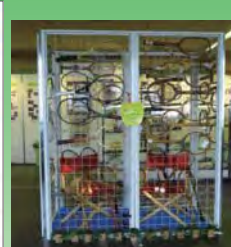
▲来場されたローズウォール夫妻とリッチビッティITF会長、および大会役員の甘露寺氏と小田委員長

## フェデレーションカップの時代



▲輝くオリンピック初メダル(1920年銀、テニス種目)、および熊谷選手使用のラケットや原田選手のアルバム類を展示

▶初参加の1964年(第2回大会)からワールドグループ入りを決めた1994年まで、フェデレーションカップ参加日本チームの軌跡。翌1995年から「フェドカップ」と改称



▲JTA所蔵史料ラケット、およびメーカー各社のご協力による名品ラケットの展示

▶ロンドン五輪など世界各地の大会で活躍する選手の特集

## トピックス



# 全日本選手権歴史展示

(2012.11.3～11、於・有明コロシアム)



▲第1回全日本選手権優勝の福田選手、第2回優勝の原田選手の事績など



▲昭和8年に撮影された名選手たちの映像公開



▲JTA90周年を記念し、天皇杯、秩父宮妃記念盾を特別展示

◀来場者に説明

### 今後の設立計画 - 2013年以降 -

年	年月	事項	年	年月	事項
2013	平成25年 1月	「平成24・25年度 テニスミュージアム基金支出計画書」作成	2013	平成25年 10月	ジャパンオープン歴史展示
	平成25年 4月	新任：矢澤猛副委員長、小川あさ子委員、越智和夫委員 安藤健児委員後任に佐藤孝裕プロジェクト委員 中期5カ年計画の最終年度開始 ニュースレター第4号発行	2014	平成26年 4月	ミュージアム設立へ新規計画の開始 ニュースレター第5号発行 委員会単年度事業の継続 委員会長期計画事業の継続 (基金支出計画書の内容など)
	平成25年 9月	2020年オリンピック・パラリンピック開催地決定			

**平成24年度**  
**「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」会計報告書**

平成24年4月1日～平成25年3月31日

**I 収支決算書**

(単位 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
寄附金	3,718,000	事業費	
受取利息	3,769	ニュースレター・趣意書印刷	226,000
		史資料データ化	1,612,447
		史資料補修作業	12,127
		事務費	
		募金案内封入作業費	39,900
		通信費	1,240
		振替口座徴収料	960
		その他	1,880
		支出小計	1,894,554
		基金への積立	1,827,215
収入合計	3,721,769		3,721,769

**II 年度別基金積立** ※平成24年度積立金額は積立予定金額です。

年度	募金額	積立金額	積立金額累計
平成20年度	8,000,000	7,760,000	7,760,000
平成21年度	6,479,215	5,876,702	13,636,702
平成22年度	4,509,905	3,449,460	17,086,162
平成23年度	2,061,300	2,426,973	19,513,135
平成24年度	3,718,000	1,827,215	21,340,350

〈揭示板〉

**新しい寄附金制度：**JTAに寄附する個人、法人は税法上の優遇措置（所得税の所得控除・税額控除、住民税、相続税の控除、法人は法人税控除）を受けられます。6月初旬にJTAから送られる特定寄附金申込書「テニスミュージアムに係る寄附申込書」にご記入いただき、振込先の該当欄に○印を付けて何れかの金融機関にご送金ください。

従来の「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」は、新制度に移行して積み立てられます。テニスミュージアム設立の為に、引き続きのご支援を宜しくお願い致します。

**振込先口座名：**公益財団法人日本テニス協会 寄附金

**金融機関：**ゆうちょ銀行 **口座番号：**00130-0-504638

**振込先口座名：**公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金

**金融機関：**三菱東京UFJ銀行 **支店名：**渋谷中央支店 **口座番号：**(普通) 0272922

**テニスミュージアム委員会**

委員 長：小田晶子      副委員長：矢澤 猛  
 常任委員：小林公子、武内 勝、福田達郎、小林やよい、西野 篤、越智和夫  
 小川あさ子  
 プロジェクトチーム：宮城 淳、我孫子和夫、市山 哲、猪熊研二、川地 孝  
 栗岡 威、吉井 栄、後藤光将、佐藤孝裕